

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立串本古座高等学校

校長名：榎本 貴英

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

豊かな心と確かな学力を身につけ、個性の伸長をはかることにより、持続可能な地域や社会の形成者として貢献できる人間を育成する。

学校評価の公表方法

学校運営協議会や育友会総会を通じて関係各位に結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（3月31日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	2022年に改訂された「生徒指導提要」に基づき、本校の現状を踏まえながら、生徒一人ひとりの人権と個性が尊重される学校を目指し、規範意識を高めるとともに他者を思いやり、互いに認め合う心を培い、誰もが生き生きと未来を切り拓く力を持った人間を育成する。	B	年間を通して、校門指導・自転車駐輪指導を行い、生徒の登下校の様子に注意を払う。	校則や社会規範の遵守が、キャリア形成に繋がるという意識が高まっているか。	B	あいさつは全体的によくできているが、自転車の鍵かけ等駐輪マナーに欠ける生徒が一定数いる。	○SNS利用の指導については、次年度以降も年度のできるだけ早い時期に人権LHRや情報モラル講演等を実施し、生徒の意識向上とトラブルの未然防止に努める。 ○身だしなみについては、まずクラス担任が朝のSHRで生徒の身だしなみ（頭髪・服装・ピアス等）を指導する。改善が見られない生徒については学年と連携しながら根気強く指導を継続する。
			各学期の始業式に服装頭髪点検を実施し、改善を促す。また、1学年は4月に業者による制服の正しい着用についての身だしなみセミナーを実施する。	身だしなみやマナーを守り、学校生活において適切な言動がなされているか。服装や頭髪に違反があった場合、速やかに改善がなされているか。	C	身だしなみについては、声かけを必要とする生徒は一定数いる。特に制服をきちんと着ていない生徒が多く見受けられる。	
			交通安全に関する講演会とテストを実施する。また、情報モラルに関する講演会も実施する。	交通ルール・列車・バス等の乗車マナーが守れているか。また、SNSの利用について、生徒の意識向上がはかられているか。	B	交通安全教室を開催したが、通学時の自転車マナーは徹底されていない状況である。また、SNSの利用についても軽はずみな言動によるネットパトロールの報告があり、指導しているところである。	
2	生徒間の学力格差は顕著であり、特別支援を要する生徒も存在する。個々の特性を理解し、組織的な対応ときめ細かな学習指導の構築を目指す。	B	個々に応じた情報提供を行い、納得のできる進路実現を目指す	学習環境の整備（教室整理整頓・インターネット環境の充実・視聴覚教材の活用・デジタル教科書の使用）	A	進学、就職共に目標に向け努力をする生徒の様子がみられる。	○キャリア教育を通じ、目標を高く持ち、意欲的に学習に取り組む態度の育成を目指す。 ○授業における一人一台PCやデジタル教材の更なる活用等により、個別最適な学びを実現し生徒の学力向上を目指す。
			家庭で自主的に取り組むなど学習時間を確保する具体的な方策を模索する。	年間一回の研究授業実施による授業力向上と言語活動を中心とした主体的に活動をさせるなどの探究型の授業への取組	B	研究授業の実施や、各教員の取組の共有を行い、生徒が主体的に活動する授業に向け、取組が続いている。	
			基礎学力を確立するために各教科の組織的な取組を具現化する。	自己の考えを主張できるプレゼン能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	B	1,2年とも総合的な探究の時間にて探究活動のまとめ発表（プレゼン）まで行った。2年生は授業についてもまとめ、プレゼンを実施した。	
3	生徒会が各行事において、コロナ禍で制限を受けつつも状況に応じて柔軟かつ積極的な活動ができたが、実施内容についてさらに検討する。 クラブ活動については、全体的な加入率は高いものの運動部の加入率が低迷している。しかし、今年度からバスケット部も再開したこともあり、より一層の活性化を検討する。	B	クラブ活動の更なる活性化に取組む。	各クラブ活動の維持向上。	B	合同チームで大会参加を行う部活動があった。	○生徒数の減少傾向にある現状で、生徒の状況に応じた部活動の活動形態を探っていくことが必要である。 ○生徒会活動では、より積極的な活動を展開していく。他校の生徒会との交流も計画する。
			体育祭・文化祭その他の学校行事において地域に向けて串本古座高校を発信する。	地域住民の参加や町内関係機関からの働きかけを得ることができるか。	B	地域住民の協力を得て、文化祭で地域の伝統文化である秋祭りの踊り披露を行った。	
			生徒会活動の活性化のため地域や他の学校との交流に取り組む。	生徒会行事を積極的に行うことができたか。校外へのイベントに積極的に参加することができたか。	A	募金活動をはじめ、様々な企画を成功させた。	
4	学校設定科目等で地域資源を生かした教育を推進しているが、防災教育などでも地域との連携をさらに深め、学校教育の活性化を図りたい。また、学校の特色や教育活動等の情報を発信することで開かれた学校づくりに努め、入学志願者の増加につなげる取組を行う。	B	防災委員会を核とした、生徒の「自助、共助、公助」意識の向上を図る防災教育の実施。	災害発生時に適切な判断や行動ができるよう、防災スクールや避難訓練をとおして意識の涵養が図れたか。	A	地域の防災担当者と連携し、教員への現職教育、避難訓練の際のバーテーション等の組立体験を実施。下宿生に対し地域住民の避難訓練に参加を呼びかけるなど行った。	○避難訓練では、浮クッションの着用实际行动を行う、JＲ、消防など地域と連携するなど充実を図る。 ○全国募集に向けた情報発信はもとより、地域の中学生に対してのアピールに、より注力する。
			コーディネーター等と連携し、本校だからこそできる教育活動を模索し、構築する。	地域資源を活用した魅力ある教育課程を編成できたか。	B	令和6年度の学科改編に向けて新たな枠組みとなる豊かな地域資源を生かした教育課程を編成することができた。	
			「学校案内」や生徒の全国募集に係る広報資料の充実。中学校との連携を密にし、オープンスクールをより有意義なものにする。	充実したオープンスクールの実施や、ホームページの随時更新等。	B	個別の学校見学やオープンスクールを複数回実施し、生徒募集に努めた。また学校案内パンフレットやホームページを一新し、地域や全国に向けて学校情報を発信した。	

学校関係者評価

○宇宙探究コースの設置等もあり、メディア露出の機会が増えている。県外等から期待して入学してくる生徒が、「来てよかった」と思えるよう中身を充実させて欲しい。全国募集の生徒が増えてくれば、寮の建設も現実味が出てくる。

○進路保障の取組は評価できる。特に国公立への二桁合格は学校規模からいっても着実に成果を残している。学校内にある地域協議会が設置したくろしお塾の取組なども成果を残した一因といえる。今後も地元自治体からの継続的なバックアップを期待したい。

○志願者数が少ないのが残念だが、中学生の数が減り、進路希望が多様化するなかでやむを得ない面もある。言わずもがなだが、日々の授業・生徒指導や特別活動等、今いる目の前の生徒をどう育てるかという視点が重要である。

○生徒の身だしなみはやや気になるところである。様々な課題を持った生徒がいる中で指導が厳しいのは承知しているが、「放置しているのではないか」という地元住民の声があるのも事実である。たいへんだが職員全体で地道に取り組んでいくしかない。